

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	山元町保育園
経営主体(法人等)	個人
対象サービス	認可保育所
事業所住所	〒231-0856 横浜市中区箕沢50-1
設立年月日	昭和30年5月1日
評価実施期間	平成26年3月～平成26年8月
公表年月	平成26年10月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特徴】</p> <p>1. 立地及び施設の概要</p> <p>0歳児から5歳児を対象とした、定員120名、現在籍129名の保育園です。開設から今年で59年の歴史を刻んでいます。園は、JR京浜東北線山手駅から徒歩あるいは、横浜市営バス山元町二丁目から徒歩5分ほどの小高い丘の上にあります。敷地が広く、幼児園舎、乳児園舎、給食室、茶室、人形の家建物がそれぞれ独立しています。桜、梅、銀杏、椎などの多種多様な樹木や草花に囲まれて、子どもたちは自然や四季の移り変わりを日々間近で感じ取ったり、広い園庭で十分に体を動かせる環境が整っています。</p> <p>2. 保育の特色</p> <p>子どもとコミュニケーションをとる方法の一手段として、家庭での育児方法「おむつなし保育」を参考にした「おむつなし保育」を平成22年から乳児に取り入れています。5歳児は月に数回、敷地内の茶室でお茶のけいこをしています。お菓子やお茶の出し方、正座の仕方といった作法を無理なく学んでいます。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 広い敷地や園庭を十分に活かした保育</p> <p>午前中の保育時間、給食後の午睡の準備が整うまでの時間、午睡後、延長保育時に、子どもたちは毎日園庭で思いきり遊んでいます。固定遊具としてローラー滑り台、鉄棒、ジャングルジム、雲梯、登り棒などがあり、子どもたちは全身を使う遊びの中からバランス感覚や運動能力を高められるようになっていきます。桜、銀杏、椎など数多い植栽で季節を感じ、ピワなどの果実をおやつにしたり、梅の実を収穫してジュースを手作りし、敷地内の畑で野菜を育てて食育に活かしています。見つけた植物や虫を手にとったり、ルーペや図鑑で調べたりしています。園内の豊かな環境の中でのさまざまな体験を通して子どもたちは成長しています。</p>	

2. 子ども一人一人のペースに合わせた職員の関わり

ベテランの職員が多く、ゆったりと子どもと関わっています。おむつなし保育では、言葉で伝えられない一人一人違う子どもの排泄のサインや欲求を職員は常に関心を持って感じ取れるよう努めています。子どもの性格、前担任との馴染みが強いなど、進級時に特に配慮が必要な子どもの場合は、個別の指導計画にその旨を記載し、給食でその子が満足してごちそうさまをするまで見守るなど、子ども一人一人のペースに合わせた保育が行われています。

3. 保護者の高い満足度

利用者アンケート結果によれば、総合満足度は満足・どちらかといえば満足を合わせると100%（回収率 63, 8%）と保護者から高い支持を得ています。ほとんどの質問項目で100%あるいは90%を超える満足度となっています。保護者と日頃からコミュニケーションを密にして要望の把握に努め、理解を得ながら園運営を進めてきた結果と考えられます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 計画的な人材育成・援助技術の向上

平均在職年数が13年と長く、スキルを持った職員により、安定した保育が行われています。平成25年度からは、園が独自に作成した「保育士自己評価」シートを人材育成のツールとしても活かそうとされていますが、園として計画的に人材育成をし、職員のモチベーションを高めるために、経験や習熟度に応じた役割と期待水準を設定し、これに向けた研修計画の作成が期待されます。

2. 地域や社会に関わる体験を増やす工夫

園内の豊かな環境の中で、子どもたちはさまざまな経験、体験を通して成長していますが、園外に出る機会は基本的には月1回程度の散歩になっています。園生活のさらなる充実と豊かな生活体験をするために、日常的な散歩を増やし、かつ、地域や社会に関わる機会や体験を増やす工夫が期待されます。

3. 園の情報提供と子育て支援

園の情報は横浜市や中区のホームページから得ることができますが、パンフレットの常置や園のホームページ開設など園独自の媒体を使用した情報提供の検討が期待されます。また、地域の方からの園の子育て支援に関する問い合わせやニーズに対応できるよう、園の専門性を生かしたサービスの提供を広げる検討も期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・園の保育理念は「ひとり、ひとりの子どもを尊重し、保護者から信頼される保育園を目指す」、保育方針は「自然に恵まれた環境のなかで豊かな心を育て、たくましい身体をつくる」を掲げており子ども本人を尊重したものとなっています。また「心身ともにすこやかな子ども」「思いやりのある子ども」「意欲がある子ども」を園目標に定めて保育にあたっています。
- ・職員は子どもとの信頼関係を築くため、職員全員が常に公平で同じ態度で接するように心がけています。職員会議で話しかけ方や接し方などについて気がついたことはそのつど話し合っています。
- ・平成22年度から家庭での育児法「おむつなし育児」を取り入れた「おむつなし保育」を実践しています。言葉で伝えられない一人一人違う子どもの

	<p>排泄のサインや欲求を職員は常に感じ取れるよう努めています。おむつなし保育実践により、職員の観察する力がつき、一人一人の子どもとの関わり（言葉かけやスキンシップ）が確実に増えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務については、就業規則に明記し、保管庫の取り扱い方法や文書管理、守秘義務の重要性等を全職員に対して説明して周知を図っています。 ・中区こども家庭支援課・中央児童相談所・中部地域療育センターと連携し、助言や情報が得られる体制をとっています。 ・職員は、遊びや役割、服装などで性別による区別をしていません。グループに分ける時や整列も自由で、子どもたちの自由な意志に任せています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の自主性を見守りながら子どもに寄り添い、基本方針に沿ったサービスが提供されています。 ・各保育室内に絵本棚が置かれ、ままごとセット、ぬいぐるみ、ブロック類など自由に取り遊べるようにしています。絵本やおもちゃは季節、子どもの発達や興味に合わせて入れ替えています。 ・マット、ゴザなどを利用して遊びに合わせてコーナーを作り、グループや一人でそれぞれ落ち着いて遊べるようにしています。 ・0～2歳児までは個別の計画を作成しています。3歳児からは個別対応が必要な子どもについては月間指導計画の備考欄に記入することとしています。個別の課題がある場合は職員会議や幼児・乳児の話し合いで共通事項として、他の職員からの意見も参考にして柔軟に変更、見直しを行っています。 ・広い園庭に、ローラー滑り台、鉄棒、ジャングルジム、雲梯、登り棒など固定遊具が備えられ、子どもたちは全身を使っての遊びの中からバランス感覚や運動能力を高めてられるようになっていきます。 ・給食は、時間がかかっても子どもが自分からごちそうさまをするまで職員はゆったりと見守っています。職員も子どもと同じテーブルに付き、さりげなく支援しています。 ・5歳児は月に数回、敷地内の茶室でお茶のけいこをしています。お菓子やお茶の出し方、正座の仕方といった作法を無理なく学んでいます。 ・園庭のびわをおやつにする、梅を収穫してシロップ作り、園庭に設置した石釜でピザや焼き芋を焼くなどクッキングを楽しんでいます。園内にある井戸で、収穫した野菜洗いを手伝っています。 ・眠れない子、眠たくない子には強制せず、布団の上で横になって体を休めるように言葉をかけたり、絵本を見せるなどの働きかけをしています。 ・おむつなし保育は、職員が子ども一人一人のその日の体調によるリズムの変化や排泄前の仕草などサインをよく観察し、活動の区切りなどでおまるにタイミングよくできた場合は、「上手にできたね」「よかったね」と一緒に喜んでいます。

<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児には個別の連絡ノートがあり、その日の子どもの様子などを細かく記載して保護者との連携を密にしています。3歳児以上は保護者の要望に応じた対応をしています。 ・指導計画は、月に1回、各クラスで話し合っ作成・評価・見直しを行っています。月2回実施する職員会議時に行うカリキュラムの議題の際に、必要に応じて主任が助言しています。幼児、乳児に分かれて話し合いを行う場合もあります。 ・園舎はバリアフリー構造ではありませんが、玄関前の段差など必要な場所にスロープを設置するなど車椅子利用にも対応しています。子どもたちは障がいのあるなしに関わらず、自然な関係を築いています。 ・虐待の予防、対応策として、中央児童相談所と連携し、助言や情報が得られる体制をとっています。 ・食物アレルギー対応の子どもには、専用のトレイと食器を用意し、別机で間違いのないように提供しています。給食室と配膳時、提供時にそれぞれでチェックしています。 ・外国籍の保護者の方針を大切に考え、出来る限り不安を取り除くように配慮をしています。子どもには生活習慣の違いなどを説明はせず自然に受け入れるようにしています。 ・クラス懇談会や個人面談、行事後にアンケートを実施して、意見や要望の把握に努めています。園独自で解決が困難な場合は、中区子ども家庭支援課や中央児童相談所に相談しています。また、内容によって弁護士の協力を得ています。 ・衛生管理・感染症・安全管理はマニュアルに基づき対応しています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は地区の自治会会長を永年務めており、町内会や婦人会と交流を深めながら保育園への要望を把握しています。また園長は幼保小教育交流事業地区実行委員会の運営委員長として、子育てに関する情報の収集や課題の検討にあたっています。 ・小学校教員の研修や中高校生の体験学習を毎年受け入れています。夏には他保育園の子どもたちとプール遊びを行っています。 ・利用希望者の問い合わせには、子どもたちが園で過ごしている様子のお見学も勧めています
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の規範等は、就業規則に明記され、採用時に必ず説明しています。 ・経営・運営状況等は求めがあればすぐに公開することとしています。 ・他施設での不適切事例や、新聞、雑誌に掲載された事例を朝礼や職員会議で園長が話し、啓発しています。


	<ul style="list-style-type: none"> ・園長・主任2名・幹部クラスの職員（2名）で行う月1回の主任会議で業務改善、重要な課題等話し合い、結果を職員会議でも話し合い、園全体で取り組んでいます。次代の運営に備え、主任クラスの職員を主任研修に参加させたり、幹部職員の採用も視野に入れて、後継者の育成に努めています。 ・弁護士や公認会計士から適宜適切な運営が行われるようにアドバイスを受けています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、常に入所人数と職員数をチェックし、職員構成を検討して、必要時補充しています。 ・年間・月間指導計画には自己評価の欄があり、評価や振り返りができる書式が定型化されています。振り返りの個別記録には、子どもの様子を丁寧に観察し、職員の関わり方や子どもが遊びに取り組む課程や、意欲を書きこんでいます。見直し、反省後は次の計画に反映させています。 ・横浜市の研修の情報を告知し、希望で参加できるようシフトの調整などで支援しています。研修参加職員は職員会議で報告し、クラス運営に反映させています。パート職員も研修参加は可能ですが、時間的な制約があるため、研修資料の閲覧、会議録の回覧などで資質向上を図っています。パート職員のクラス担任が指導・アドバイスを行っています。 ・可能な限り、現場にいる職員に権限を委譲し、園長に報告する事で、最終的な責任を明確にしています。 ・看護実習生の受け入れの際は、学年、実習経験、実習目的などを聞き、効果的な実習ができるようにプログラムを工夫しています。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の保育理念は「ひとり、ひとりの子どもを尊重し、保護者から信頼される保育園を目指す」、保育方針は「自然に恵まれた環境のなかで豊かな心を育て、たくましい身体をつくる」を掲げており、子ども本人を尊重したものとなっています。また「心身ともにすこやかな子ども」「思いやりのある子ども」「意欲がある子ども」を園目標に定めて保育にあたっています。 ・職員は、朝礼や職員会議で折に触れ園長から園や保育に対する思いを聞く機会があり、サービスの実施内容が理念や方針に沿っているかどうかを振り返り確認しあっています。 ・保育課程は、全職員の意見を参考に基本方針や保護者の家庭状況や就労状況、地域の実態を考慮し、自然豊かな環境に立地していることを取り入れて作成しています。 ・保育課程に基づき年齢ごとに作成した指導計画は、子どもの意欲を引き出せるよう、一人一人に対応した指導計画となっています。子どもたちの興味や様子、意見から日々計画を変え反映しています。 ・平成22年度から家庭での育児方法「おむつなし育児」を取り入れた「おむつなし保育」を実践しています。言葉で伝えられない一人一人違う子どもの排泄のサインや欲求を職員は常に感じ取れるよう努めています。おむつなし保育実践により、職員の観察する力がつき、一人一人の子どもとの関わり（言葉かけやスキンシップ）が確実に増えています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園前の面接では、親子で来てもらい、親との面接と同時に子どもの遊んでいる様子を観察し、記録しています。クラス担任予定の職員が対応しています。事前提出書類、面接で得た情報は、個人ファイルにしていいつでも見ることができるようになっており、日々の保育に活かしています。
- ・ならし保育は保護者の就業状況や考え方に応じて柔軟に対応しています。
- ・0～1歳の新入園児には主担当保育者を決めています。家庭から握りしめてきたものなどは子どもの心と受けとめ、持ってきたものを大切にして、安心して過ごせるよう配慮しています。
- ・進級時には、複数担任のクラスの場合は職員の一人がなるべく持ち上げるようにしています。職員は声かけやスキンシップを怠らないようにしています。子どもの性格、前担任との馴染みが強いなど、進級時に特に配慮が必要な子どもの場合は個別の指導計画にその旨を記載し、全体で見守るようにしています。
- ・指導計画は、月に1回、各クラスで話し合って作成・評価・見直しを行っています。月2回実施する職員会議時に行うカリキュラムの議題の際に、必要に応じて主任が助言しています。幼児、乳児に分かれて話し合いを行う場合もあります。
- ・食事・睡眠・排泄などについては、面談や送迎時に保護者と話し合ったり、連絡ノートのやりとりで綿密に連携を取りながら意向を尊重して行っています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・おむつなし保育を実践しているため、乳児の保育室内でのおもらしは少なくありませんが、職員はそのつど手早く拭きとり、消毒スプレーしており、気になる臭いはありません。
- ・保育室は埃が立ちにくく柔らかい暖かさが保てる床暖房を整備しています。全保育室に除菌タイプの空気清浄器、加湿器を設置しています。陽光も入る造りになっています。
- ・低年齢児にはマットやゴザ・カーペットでコーナーを作って小さい集団で遊べるようになっていきます。
- ・食べる、寝る、遊ぶは同じ部屋で行っていますが、その都度手早く清掃をして、食事、睡眠の場所を確保しています。

<コメント・提言>

- ・職員の経験知や子どもの様子だけでなく、温湿度計での適正な管理および、管理状況を記録として残すなど子どもたちがさらに快適に過ごすための施設環境の配慮が期待されます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



・0～2歳児までは個別の計画を作成しています。3歳児からは個別対応が必要な子どもについては月間指導計画の備考欄に記入することとしています。個別の課題がある場合は職員会議や幼児・乳児の話し合いで共通事項として、他の職員からの意見も参考にして柔軟に変更、見直しを行っています。

・入園時に把握した生育歴を始め、入園後の子どもの成長発達記録は、健康台帳・経過記録を個人別に児童票としてファイルしています。進級時には、児童票を基に、新旧の担任間で申し送りを行っています。年長児の就学する小学校には、保育所児童保育要録を郵送しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れ、担任、園長、主任で話し合い、職員会議で情報を共有しています。欠席の職員は議事録や朝礼ノートで確認し、全職員が共通の認識で保育にあたっています。

・園舎はバリアフリー構造ではありませんが、玄関前の段差など必要な場所にスロープを設置するなど車椅子利用にも対応しています。

・中部療育センターの巡回相談や、中区こども家庭支援課、中央児童相談所と連携し、助言や情報が得られる体制をとっています。

・支援が必要な保護者とは、園長・主任や担任が密にコミュニケーションを取り、話しやすい関係を作るよう努めています。

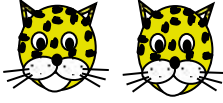
・入園前面接でアレルギーについての情報を得て、除去食申請に対する主治医意見書を提出してもらい、それに沿って適切な対応をしています。外部研修で得た食物アレルギーに対する知識や対応は職員間で周知しています。

・食物アレルギー対応の子どもには、専用のトレイと食器を用意し、別機で間違いのないように提供しています。給食室と配膳時、提供時にそれぞれでチェックしています。おかわりの入っている器を別に用意し、他の子どものおかわりと区別しています。

・外国籍の保護者の方針を大切に考え、出来る限り不安を取り除くように配慮をし、意思疎通が困難な場合は、カタカナで連絡事項を伝えたり、配布物を代読するなどの対応をする体制を整えています。子どもには生活習慣の違いなどを特に説明をせず自然に受け入れるようにしています。

＜工夫している事項＞

・保護者との連携のための工夫として、除去食や代替食などを提供した時のメモを毎回保護者に渡しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="188 181 488 215">I-6 苦情解決体制</p> <div data-bbox="233 371 456 472" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受け付け担当者は主任、苦情解決責任者は園長です。保護者に配付する年度初めの園だよりに、園への苦情について解決までの流れを図で表し、第三者委員2名の氏名を明記しています。 ・毎月第3週の1週間、玄関に意見箱を設置しています。保護者会や個人面談、必要に応じて行事後にアンケートを実施して、意見や要望の把握に努めています。自分で意見や要望を言えない子どもに対しては、職員が態度や様子で気持ちを汲んだり、保護者とは送迎時にコミュニケーションをとったり、連絡ノートを通して要望や苦情を把握するように努めています。 ・園独自で解決が困難な場合は、中区こども家庭支援課や中央児童相談所に相談しています。また、内容によって弁護士との協力を得ています。 ・要望や苦情は職員会議議事録に記載しています。幼児、乳児会議でも話し合い、苦情要望の内容を検討して解決に活かせるように、対応方法を苦情対応マニュアルに追加しています。 <p data-bbox="724 757 979 786"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員以外の他機関にも要望や苦情の申し出の手段があることを保護者に知らせる仕組み作りが期待されます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
------	-------------

Ⅱ－1 保育内容[遊び]



・保育室内に絵本棚が置かれ、ままごとセット、ブロック類など自由に取り遊べるようにしています。絵本やおもちゃは季節、子どもの発達や興味に合わせて入れ替えています。

・マットなどを利用して遊びに合わせてコーナーを作り、グループや一人でそれぞれ落ち着いて遊べるようにしています。

・園は桜、梅などの樹木や草花に囲まれて子どもたちは四季の移り変わりを日々間近で感じ取っています。敷地内の畑でキュウリ、ナス、ジャガイモなどの野菜を栽培し、収穫した野菜を給食の食材として利用しています。保育室内ではドジョウや金魚を飼育して命の大切さを学んでいます。

・0～1歳児、2～5歳児は毎日園庭で一緒に遊んでいるため、年少の子が年上の子の真似をしたり、年長の子が年下の子の面倒を見るなど自然な関係性が培われています。

・幼児間のトラブルは状況に応じて職員がお互いの気持ちを代弁したり、解決策を提案したりしています。

・公園への散歩の途中では地域の人々と挨拶を交わしたりしていますが、月に1度と外出の頻度は多くありません。

・園庭に滑り台、鉄棒、ジャングルジムなどがあり、子どもたちは全身を使って遊び、運動能力を高めています。

<コメント・提言>

・散歩や園外保育など、日常的に地域や社会に関わる体験を増やされることが期待されます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



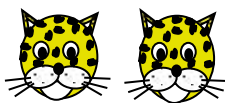
- ・授乳、離乳食は子どものペースを尊重し、子どもが自分からごちそうさまをするまで職員はゆったりと見守っています。
- ・5歳児は月に数回、敷地内の茶室でお菓子やお茶の出し方、正座の仕方といった作法を学んでいます。
- ・梅シロップ作り、園庭の石釜でピザや焼き芋を焼くなどクッキングを楽しんでいます。
- ・職員は子どもの食事の様子を観察して嗜好調査を行い、栄養士は時々クラスに入って一緒に食事をして、給食会議で検討し献立や調理方法に反映させています。
- ・毎年保育参観日に保護者は給食の試食をし、家庭での食事に活かしてもらえるようにしています。
- ・午睡時には部屋の照明を調節し、エアコンを使用して子どもが落ち着いて眠れるようにしています。眠れない子どもには強制せず、絵本を見せるなどしています。
- ・0歳児は5分、1歳児は10分ごとに呼吸チェックをしています。5歳児は秋のころから午睡を一斉活動としないようにしています。
- ・おむつなし保育では、職員が子ども一人一人のその日の体調によるリズムの変化や排泄前の仕草などサインをよく観察し、おまるでできたときは、「上手にできたね」と声をかけています。
- ・幼児でお漏らしがあった時は自尊心を傷つけないようにさりげなくシャワー室に案内し、別室で着替えています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果を健康台帳に記録するとともに、保護者には書面で知らせています。診断結果について保護者から内容の確認や相談があった時は、嘱託医と連携し相談内容の回答やアドバイスを行っています。
- ・予防接種や既往症の追加・変更は保護者から随時情報を得て健康台帳に記録し、ファイルを児童票としてまとめ保管庫で管理をしています。
- ・健康管理に関するマニュアルに基づき毎日、子どもの健康状態を把握しています。子どもの体調に変化があった時は速やかに対応し、熱が37.2度を目安に、保護者に電話連絡をしています。
- ・歯の健康については、0～3歳児は食後お茶を飲んで虫歯を予防し、歯磨き指導は3歳後半から実施しています。
- ・感染症対応マニュアルに基づき、入園のしおりに感染症の症状や登園基準などを明記して、入園説明会で説明しています。
- ・保育中に発症または疑われる場合は、保護者に速やかに連絡し、保護者の迎えがあるまでは別室で休ませ、他の子どもへの感染予防に努めています。感染症の発生は各クラスのホワイトボードに掲示し、留意点や予防策を情報として提供しています。
- ・感染症に関する情報は横浜市、中区より随時FAX提供があり、職員は情報を共有して状況に対応しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルがありますが、定期的な見直しや研修を今後の課題としています。
 - ・園内外は清潔・適切な状態が保たれています。保育室内は担任保育士が清掃しています。トイレ・廊下など共用部分は清掃当番表に基づいて職員が順番に行っています。
 - ・砂場の砂は毎日掘り起こし、使用後はネットをかけています。
 - ・害虫駆除は年に2回行っています。
- <コメント・提言>
- ・衛生管理が適切に行われるよう、マニュアルの見直しや職員が内容を共有するための研修など行うことが期待されます。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]

- ・教材、備品等を入れた大型収納棚や音響機材は固定化されて転倒防止がなされています。子どもの目線より高い位置に収納された布団やおもちゃなど落下防止に関して十分でないところがあります。



「かまはやくしつがめつよ」
・緊急時の連絡として、保護者から要望のあるメールによる一斉送信や「伝言ダイアル」利用については今後の検討としています。

・火災や地震を想定した訓練を毎月実施しています。災害時には地域の避難場所へ移動はせず、園舎に留まることとしています。

・AEDを2ヶ所設置しており、救急救命法やAEDの取り扱いの研修を職員は受けています。

・医療機関、行政などの保育園連絡先一覧を職員室に掲示しています。緊急時はどの職員でも速やかに対応できるようにしています。


・小さなケガであっても保護者には口頭で必ず伝えていきます。長時間記録ノートに記録し、担任が不在の場合も確実に申し送っています。ケガの報告は事故報告書を基に職員会議で話しあっています。

・乳児の園舎は出入り口を中から閉めています。幼児の園舎に入る門は簡易な差し込み棒を使用しています。非常時にはただちに警察に通報する体制、不審者情報収集、年に1度不審者対応の訓練実施、防犯カメラの設置のほか、園長が常時園内を巡回していますが、保護者から不審者侵入を防ぐ対応策について不安の声が聞かれます。

<コメント・提言>

・転倒防止や落下防止の必要な個所の安全対策を講じることが期待されます。

・保護者の不安が少しでも軽減されるような出入り口の施錠方法や侵入防止策の検討が期待されます。

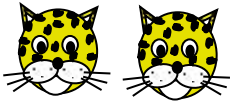
評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="185 181 448 210">Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が子どもに話しかけるときは、威圧的にならないよう穏やかに言葉かけをし、名前を呼ぶ時も呼び捨てにしません。わかりやすい言葉を使って子どもたちに接しています。 ・子どもとゆっくり話し合うときは、プライバシーを守れる場所として保育士の控室となっている「先生のお部屋」を利用しています。 ・個人情報の取り扱いに関しては、就業規則に明記し、全職員に対して保管庫の取り扱い方法や文書管理、守秘義務の重要性等を職員会議で説明して、周知を図っています。 ・保護者にはクラス懇談会や園便りを通して、保育活動開示のための子どもの名前や写真の使用、緊急連絡網の作成など個人情報の具体的な取り扱いについて説明し、了承を得ています。 ・性差に関して遊び、持ち物、服装、行事の役割などで男女の区別はなく、グループに分ける時や整列も自由で、子どもたちの自由な意志に任せています。 ・幼児園舎トイレの出入り口の引き戸が常に開放状態にあり、用を足す姿が見えたり、2歳児のクラスから便器が見える状況になっています。 <p data-bbox="724 819 979 848"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児であっても子どもの人格を尊重した対応について再度検討されることが望まれます。 ・トイレ出入口引き戸の開閉について検討が望まれます。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携

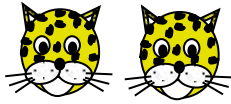


- ・毎月、園だより、クラスだより、給食だより（献立表含む）を発行し、配布されている「山元町保育園行事予定」表には園の理念・基本方針に基づいて定めた園目標を明記しています。
- ・送迎時には保護者と会話に努め、0～2歳児は連絡帳、3歳児以上は保護者の要望に応じた対応をしています。担任が不在の場合でも、子どもの様子が伝えられるよう「長時間記録ノート」で引き継ぎをしています。
- ・その日にあった出来事や子どもたちの様子、連絡事項はクラス保育室入口のホワイトボードで知らせています。
- ・「おむつなし保育」を行っていることから0、1歳児各クラスだよりにおむつなし保育の欄を設け、子どもたちの様子を伝えています。
- ・6月に保育参加、11月に保育参観を行い、保育参観は数日間の幅を持たせて設定し参加者増を図っています。
- ・個人面談は乳児年2回、幼児は年1回実施し、希望があれば随時受け付けています。また年2回クラス懇談会を実施して意見交換を行っています。
- ・保護者からの相談は、人目に触れぬようホールを利用し、担任の判断で対応できない場合は、カウンセリング手法を身に付けた職員や主任がフォローしています。
- ・保護者会主催によるお泊り保育や卒園式後の茶話会には、保育室が提供され、園長・保育士や調理関係者が参加しています。準備や後片付けの協力、反省会での歓談を通して、交流を深めています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は地区の自治会会長を長年務めており、町内会や婦人会と交流を深めながら保育園への要望を把握しています。また園長は幼保小教育交流事業地区実行委員会の運営委員長として、子育てに関する情報の収集や課題の検討にあたっています。 ・地域の方から一時保育や絵本の貸し出しについてなど子育て支援に関する問い合わせがあります。朝礼や職員会議で話し合いをしています。 ・園庭開放を実施しています。 ・地域住民に向けて、子育てや保育に関する講習会、研修会の開催はありません。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での子育てを支援するために、地域住民に向けた講習・研修会の開催の検討が期待されます。

Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能



・園見学の際の育児相談は随時対応していますが、定期的な育児相談日は設けていません。

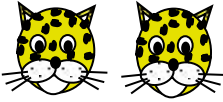
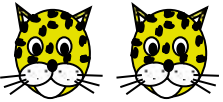
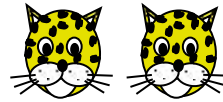
・必要な関係機関、地域の団体の連絡先は一覧表にして職員室に掲示し、職員が共有しています。関係機関との連携担当者は主任です。

・中区子ども家庭支援課・児童相談所・中部地域療育センターとの日常的な連携がとれています。

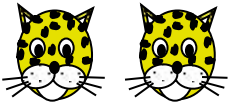
<コメント・提言>


・地域住民に向け、今後定期的な育児相談が期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の折は、お知らせを掲示園入口や地域の商店に掲示しています。お茶会には保護者が呼びかけた知人の出席も可能です。 ・5歳児が就学前に小学生と給食を一緒に食べる行事で交流しています。小学校教員の研修や中高校生の体験学習を毎年受け入れています。 ・夏には他保育園の子どもたちとプール遊びを行っています。 ・餅つきの臼や運動会の玉入れの玉といった園の備品を小学校に貸し出しています。 ・散歩で森林公園、遠足で野毛山動物園、園外保育で横浜美術館や子どもログハウスに出かけていますが、日常は、広い園庭で遊んでおり、園外に出る機会は多くありません。 ・音楽会・移動動物園・お餅つき大会など、地域の学校開放イベントのお知らせを園舎玄関に掲示しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩など子どもと地域の日常的な交流の機会を増やされ、さらなる子どもの園生活の充実を図られることが期待されます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報は横浜市や中区のホームページで確認ができますが、園のパンフレットの常設・園のホームページによる情報提供はありません。 ・利用希望者の問い合わせには、「園見学説明項目」プリントに沿って担当職員が都度説明し対応しており、見学できることを必ず伝えていきます。保育に支障がない限り利用希望者の都合に合わせて見学案内をしています。子どもたちが園で過ごしている様子の見学も勧めています <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園独自の媒体を使用した情報提供が期待されます。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れのためのマニュアルがあります。受け入れに際しては担当職員の個人ノートにて、説明や記録をしています。 ・現在、通園バッグ作成ボランティア1名の受け入れがあります。 ・実習生は看護学生を毎年受け入れており、学年、実習経験、実習目的などを聞き、効果的な実習ができるようにプログラムを工夫しています。最終日に実習反省会を開き、反省、振り返り、意見交換を行っています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れに関する記録は、担当職員個人のノートでなく、園としての記録を残されることが期待されます。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、常に入所人数と職員数をチェックし、職員構成を検討して、必要時補充していますが、人材育成計画書を策定するに至っていません。 ・主任は、職員の経験年数や希望に応じて、外部研修に出席できるよう働きかけていますが、園としての研修計画は作成していません。 ・発達障害、災害対策といった横浜市の研修の情報を告知し、希望で参加できるようシフトの調整などで支援しています。研修参加職員は職員会議で報告し、クラス運営に反映させています。パート職員も研修参加は可能ですが、時間的な制約があるため、研修資料の閲覧、会議録の回覧などで資質向上を図っています。パート職員のクラス担任が指導・アドバイスをを行っています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の計画の策定が期待されます。 ・平成25年度から園が独自に作成した「保育士自己評価」シートを用いて、職員は保育理念・子どもの発達援助・保護者に対する支援・保育を支える組織的基盤の自己評価を実施しています。職員の人材育成のためのツールとしての今後の活用が期待されます。 ・計画的な人材育成や職員の研修ニーズに配慮した、研修計画の作成が期待されます。



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園としての自己評価は今回第三者評価で行い、サービスの質の向上に活かして行くこととしています。 ・年間・月間指導計画には自己評価の欄があり、評価や振り返りができる書式が定型化されています。子どもの育ちの様子を丁寧に観察し、職員の関わり方や子どもが遊びやプログラムに意欲的に取り組む姿を、振り返り欄に書きこんでいます。見直し、反省をして次の指導計画に反映させています。 ・職員は保育実践の振り返りから浮かび上がる課題などを持ち寄り、職員会議で意見を述べ、話し合っています。 ・会議で出された課題、当園が独自に作成した「保育士自己評価」、第三者評価結果などを基に、保育所としての課題を抽出し、改善に取り組んでいます。 <p><コメント・提言></p> <p>今回の園の自己評価、第三者評価をもとにして、今後の園としての課題を把握し改善に取り組み、かつ、公表することが期待されます。</p>

V-3 職員のモチベーションの維持



・園の職員としての期待水準は明文化されていません。
 ・可能な限り、現場にいる職員に権限を委譲し、園長に報告する事で、最終的な責任を明確にしています。
 ・園長は、職員会議や日常的に職員から業務改善の提案を募り、会議で検討し、業務改善に結びつけています。園の行事後に職員から改善点や良かった点などクラスごとに反省し、次回に活かすようにしています。
 ・園長・主任は職員からの意見が出やすいような雰囲気作りに心がけています。園長は毎日園内を巡回しながら職員に話しかけ、意見・要望を把握しています。
 <コメント・提言>
 ・職員のモチベーションを高めるために、経験や習熟度に応じた役割を期待水準としてまとめることが期待されます。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<p>・職員の規範等は、就業規則に明記し、採用時に必ず説明しています。 ・経営・運営状況等は求めがあればすぐに公開することとしています。 ・他施設での不適切事例や、新聞、雑誌に掲載された事例を朝礼や職員会議で園長が話し、啓発しています。 ・ゴミの減量化・リサイクルなど環境に配慮した具体例として、雨水を溜め、園庭の水まきなどに利用しています。落ち葉や精米後の糠は堆肥としています。ゴミの取り扱いや節電の効果について全職員が周知しています。保護者に廃材集めの協力を呼びかけ、子どもの制作活動に活用しています。</p>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<p>・理念・基本方針・園目標は職員室に掲示しています。園独自の「保育士自己評価」シートの中に保育理念についての実践評価項目があり、職員への周知、理解に努めています。 ・園の重要事項を決定する際は、保護者に園だよりで事前に知らせています。今年度は園舎の耐震工事にあたり、十分に説明を行っています。 ・乳児クラスと幼児クラスの2人の主任が在籍しています。主任は、横浜市の主任研修を受講して、スーパーバイズのできるスキルを高めています。 ・乳児担当主任は担任として、幼児担当主任はフリーの立場で、常に現場に入って職員全体の業務状況の把握や、職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、シフトの調整など具体的な配慮を行って保育が円滑に実施されるよう調整しています。園長と連携し、全職員の個々の能力や経験を把握して、それぞれに見合った指導や助言をしています。</p>

VI-3 効率的な運営



・園長は幼保小教育交流事業地区実行委員会の運営委員長としての立場から、27年度施行予定の子ども子育て支援新制度や待機児童についてなど常に情報を収集・分析しています。弁護士や公認会計士から適宜適切なアドバイスを受け、園の運営に反映しています。

・園長・主任2名・幹部クラスの職員（2名）で行う月1回の主任会議で業務改善、重要な課題等話し合い、結果を職員会議でも話し合い、園全体で取り組んでいます。主任クラスの職員を主任研修に参加させるなど、後継者の育成に努めています。園運営に関する中長期計画はありません。

<コメント・提言>

・中長期的な事業の方向を定めた計画の作成が期待されます。

利用者家族アンケート

施設名：山元町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数127名、全保護者127家族を対象とし、回答は81家族からあり、回収率は64%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は100%（満足78%、どちらかといえば満足22%）と高い評価を得ており、否定的な回答は0%であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) 入園するときの状況について、6項目の設問を合わせると（「満足」「どちらかといえば満足」）の回答が94%になり、入園前の説明や受け入れ時の子どもの様子や生育暦を聞く対応が丁寧であるとうかがわれる。
- 2) 遊びについては、6項目の設問を合わせると（「満足」「どちらかといえば満足」）の回答が、97%になり、園への満足度が高い。
- 3) 生活については、7項目の設問全体で肯定的な回答は97%となっており、園における生活は高く評価されている。
- 4) 園の快適さや安全対策などについても、4項目の設問を合わせると肯定的な回答が85%であり、うち、外部からの不審者侵入を防ぐ対策については36%が非肯定的（どちらかといえば不満27%、不満9%）であり、何らかの改善策が必要と思われる。
- 5) 園と保護者との関係については、肯定的回答が96%となっており、園が保護者に対し柔軟な対応をしていることがうかがわれる。送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換についても91%が肯定的な回答であり、一日の子どもの様子の伝達がよくされていると伺える。
- 6) 職員の対応について、5項目全体で95%が肯定的回答となっており、職員への信頼が高い。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 「保育目標・方針を知っているか」の設問で「あまり知らない」「全く知らない」との回答がそれぞれ6%、4%あった。また「どちらともいえない」が7%あり、園の保育目標の認知度が低い傾向があった。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	23%	56%	7%	6%	4%	4%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	80%	14%	3%	0%	0%	3%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	68%	25%	0%	0%	6%	1%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	54%	32%	11%	0%	2%	1%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	49%	44%	5%	0%	2%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66%	31%	1%	0%	2%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	66%	33%	1%	0%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	58%	35%	7%	0%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	61%	32%	1%	1%	4%	1%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望	38%	47%	4%	1%	9%	1%

が活かされているかについては

その他:

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	81%	17%	1%	0%	1%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76%	21%	2%	0%	1%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	80%	14%	4%	0%	1%	1%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	74%	23%	1%	0%	1%	1%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	81%	16%	1%	1%	1%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	80%	20%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	79%	19%	0%	0%	2%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	77%	22%	1%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	83%	16%	0%	0%	0%	1%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	87%	12%	0%	0%	1%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	77%	18%	4%	0%	1%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	75%	17%	2%	1%	4%	1%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	57%	34%	4%	4%	1%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	74%	22%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	21%	39%	27%	9%	4%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	55%	38%	5%	1%	1%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	47%	49%	0%	0%	2%	2%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	74%	25%	1%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	72%	27%	0%	0%	1%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	51%	40%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	49%	46%	2%	2%	1%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	60%	36%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66%	28%	5%	0%	1%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	76%	22%	2%	0%	0%	0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	80%	19%	1%	0%	0%	0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	67%	15%	1%	1%	10%	6%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	79%	20%	1%	0%	0%	0%
意見や要望への対応については	58%	37%	2%	1%	2%	0%

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	78%	22%	0%	0%	0%

利用者本人調査

[0～1 歳児]

<合同外遊び>

久々の青空の元で子どもたちは0～1歳児専用の園庭で砂遊び、ボールころがし、車乗りなど思い思いに遊んでいます。遮光ネットの下で影の揺らぎを不思議そうに眺めている子がいます。梅の実を拾って「あい」と、にこにこして職員に手渡す子がいます。子どもたちは園長先生が大好きで、抱っこされてうれしそうにしています。0歳児の一人がぐずりだすと職員はそっと抱っこして保育室に戻り、歌をうたいながらあやして落ち着かせています。

[0～1 歳児]

<排泄>

おむつなし保育を実践しているため、子どもたちはよくおもらしをします。園庭遊びの最中もおもらしがありましたが、職員はすぐに対応しています。遊び後、保育室に戻る際におまるやトイレに座ります。排泄に成功した場合は、「出たね～」「良かったね～」と声をかけています。保育室内のおもらしの場合も職員は手際良く床を拭き、消毒スプレーしています。職員はそのつど手を消毒しています。

[0 歳児]

<給食>

一人一人のペースを大切にしています。最後まで食べていた子がやっと満足して食べ終わると「〇〇ちゃん、ごちそうさまかな？」の問いに、子どもはこっくりうなずいていました。

<午睡>

抱っこでミルクを飲みながら入眠する子がいます。自分の布団より他の子どもの布団がお気に入りでごろごろする子もいます。職員はトントンしたり、おでこを優しくなでたりと一人一人が入眠しやすいようにしています。

[1 歳児]

<給食>

カエルのうたや、あんぱんまんの手遊びをしながら、配膳が済むまで行儀良く自分の席に着いています。手のひらを合わせて「いただきます」をしています。よく理解できない子には「手をパチンだよ」と職員が手を添えます。献立

は魚のフライでしたが、みんな食欲旺盛で、おかわり用のごはんもなくなりました。

<午睡前>

給食後の清掃や午睡の布団の準備が整うまで、集まって「〇〇〇、何の音？」という職員の問いかけに「わかんない」「何だろう？」と口ぐちに答えています。数回のやりとりのあと、おままごとセットで遊び始めました。職員の後をついてきた子どもにビニール袋を手渡して「〇〇先生に渡してくれる？」とお手伝いを頼んでいます。子どもは迷うことなく、その先生のところにビニール袋を届けました。

[2歳児]

<園庭遊び>

2歳児から5歳児まで一緒に元気よく園庭で遊んでいます。梅の収穫に、年上の子に混ざってお手伝いをしている子がいます。大好きなダンゴ虫を見つけた子は、調査員の手のひらにそ〜っとのせてみせてくれました。久々の青空ということもあり、空を見上げて「雲いっぱい。おいしそう」と職員に伝えている子がいました。砂場遊び、三輪車、ただ駆け回るなど自分のしたいことに集中して遊んでいます。その後教室に戻り、給食までの少しの時間、職員の絵本の読み聞かせでクールダウンです。きちんと座って聞き入っています。

<給食>

ゴマ風味の肉じゃがの献立です。もくもくと食べる子、職員に甘える子とさまざまですが、おおむね落ち着いて食べています。「おかわり食べる？」と本人に確認してから、提供しています。残す子には、「〇〇ちゃん、あと一口頑張れたらデザート食べよう」とさりげなく促しています。

<排泄>

活動の区切りにトイレに行っていますが、給食中も「トイレ行って来る」と自分のペースで行っています。午睡前、自立がまだ十分でない子のおもろしが続き、職員が少し対応に追われていました。

[2～3歳児]

<延長保育、園庭での水遊び>

給食室脇に用水桶があり、2歳児と3歳児が水遊びに夢中になっています。すぐそばで職員が見守っています。子どもたちは小さなシャベルで水をすくおうとしていますが、何度やってもうまくいかず、互いに顔を見ながら繰り返しています。しばらくして職員がお手本を披露しました。子どもたちは大はしゃぎ、手を揺らすと水がこぼれるので、口をきっちり結び、集中しています。

[3 歳児]

<自由遊び>

職員が男の子 4 人と手をつないで輪になりながら、「じゃあ、一緒にダンゴムシ探しをしようか」、「うん、取ったら先生にあげるよ。」「まあ、先生にくれるのね、うれしい」。V サインをした男の子を先頭にそろって園庭の隅に向っていきました。園庭でどろけい遊びをしています。突然女の子が息を切らして職員のところを駆けてきて、「先生、〇〇君がルール違反、行ってはいけない坂を下りて行ったよーッ」憤慨する女の子の額は汗がいっぱい。「約束違反はダメですよ、戻ってきたら話をしますね。」女の子は「うん」と大きくうなずき、帽子のゴムひもをかけなおして皆のところに戻って行きました。

<食事>

食事前、互いにじゃれ合っていた男の子が不意に押し倒されて泣き始めました。職員はケガがなかったことを確かめると、押し倒した子どものそばに寄り、目線を合わせて「おふざけをするとけがをしますよ」と一言。子どもは職員という言葉にうんうんと頷いていました。ごはん容器のふたを口にくわえて遊んでいた子も驚いてすぐに蓋を元に戻していました。「熱いスープを配りませう。気をつけてね」「ハイ」「今日のデザートはメロン、今年初めてですね」職員の説明にみんなのざわめきがさらに大きくなります。メニューの紹介が終わると当番を中心に「いいですか」、「いいですよ」、「いただきます」、「どうぞ召し上がれ」。職員は全体を見渡ししながら子どもたちの間に入って食事を摂り始めます。

◇3～4 歳児

(昼食後園庭での自由遊び)

3 輪車にまたがった男の子たちが園庭の道を 8 台ほど列を連ねて行進して来ました。全員、胸を張り、まっすぐ前を見て、パレードをしているかのように間隔もきちんととらえてペダルを踏んでいます。収納庫にしまっていた子に「3 輪車面白い？」と尋ねると「ウン、面白いよ、乗る？」と言って乗ってきた 3 輪車を差し出してくれました。

[5 歳児]

<食事>

五つのテーブルに 3～4 人に分散して着席し、「いただきます」元気で弾んだ声がクラスに響きます。持参したごはんやパンに青魚のフライ、ヒジキと糸こんにゃくの煮込み、白菜のスープが並んでいます。一人の子どもがご飯が入った容器を床に落とし、職員がすぐに子どもに布巾を渡しながらこぼれたご飯を

拾い始めました。半べそをかく寸前だった子どもも職員の対応に落ち着きを取り戻します。職員が「おかわりができます。いっぱい食べてね、デザートはサクラamboで初物です。嫌いと思っても食べたらおいしいよ。」と話しかけると、子どもたちはワイワイガヤガヤ、賑やかに食事をはじめました。

事業者意見

受審の動機

第三者の公平な立場から当園を見ていただき、公正な評価を受けたかった。

受信の結果

良い点、改善を要する点などの視点から多くの意見をいただき、課題が見えてきた。

今後の方針

課題について職員間で意見交換し、解決すべく取り組みます。良い点は今後も継続していきたいと考えています。

平成 26 年 9 月 8 日

山元町保育園 園長